



西海岸周辺エリア基本構想 ～「古琉球・浦添リーフエリア」の実現～



浦添市
URASOE CITY

【目 次】

1 西海岸周辺エリア基本構想の位置づけ	
①背景・目的	2
②位置づけ	3
③対象エリア	4
2 西海岸周辺エリアの現状及び関連計画等	
①上位・関連計画	6
②関連プロジェクト	8
③西海岸周辺エリアの現状	10
④西海岸周辺エリアづくりに求められる視点	14
3 西海岸周辺エリアの目指す方向性・将来像	
①西海岸周辺エリアの将来像	18
②西海岸周辺エリアのコンセプト及び取組み方針	19
③西海岸周辺エリアの広域的な位置づけ	20
4 西海岸周辺エリアで進める先行プロジェクト	
西海岸周辺エリアで進める4つの先行プロジェクト	22
プロジェクト1:自然環境の保全・活用・啓発プロジェクト	24
プロジェクト2:海浜の適正な管理・利活用プロジェクト	28
プロジェクト3:海を活かした産業振興・育成プロジェクト	32
プロジェクト4:安全・安心環境の整備プロジェクト	36
5 今後の取組み	
今後の進め方	40



1

西海岸周辺エリア
基本構想の位置づけ

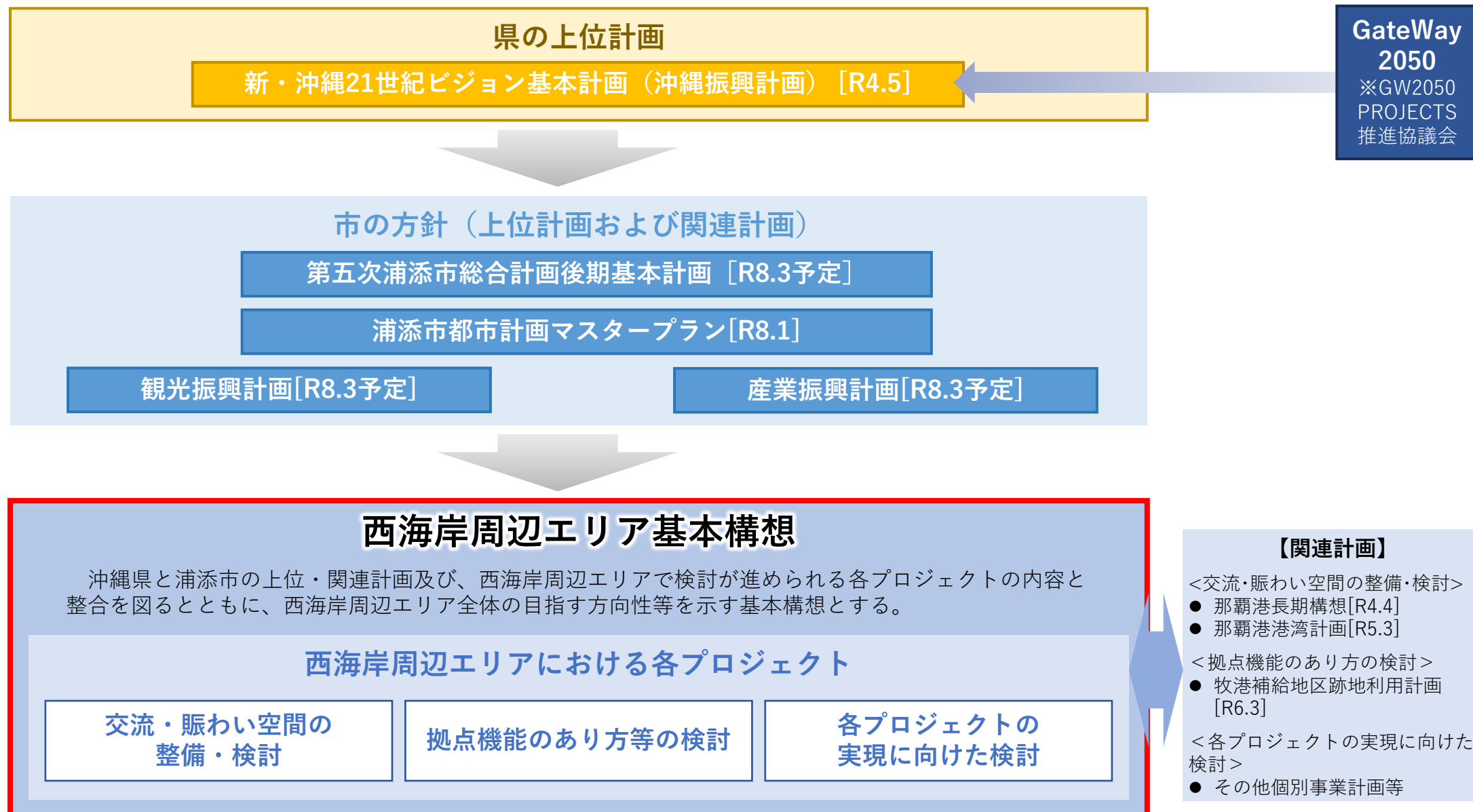
浦添市の西海岸は、イノーと呼ばれる遠浅の海が広がり、
夕日を望む風光明媚な場所として、人々に親しまれてきました。

浦添市のみならず、沖縄県中南部における貴重な海浜であり、
環境、観光、産業、交通、レクリエーション等あらゆる分野から高いポテンシャルを評価されていることから、
今後の計画的なエリアづくりが求められています。

現在、西海岸周辺エリアにおいては、基地返還予定地の跡地利用や那覇港の長期構想をはじめ、
イノベーションの創出や交流・賑わいの創出等を目的とした
新たな土地利用に関するプロジェクトが検討されています。

本基本構想は、この浦添市西海岸周辺エリアを対象に、
上位計画や関連計画・各プロジェクトの考え方を踏まえつつ、
中長期的な視点から魅力ある西海岸周辺エリアの将来像を描くとともに、具体のプロジェクトの実施を推進し、
その実現に向けた取組みの方向性を示します。

② 位置づけ



③ 対象エリア

浦添市の西海岸は、那覇空港から臨港道路等を通して約6 km（車で約20分）、大部分が那覇港港湾区域に含まれます。

西海岸から約1 km内陸側を南北に延びる沖縄の大動脈である国道58号が通り、那覇市街地に近接しています。

本基本構想が対象とするエリアは、浦添市西海岸の北端に位置する牧港漁港から西洲周辺まで、そして牧港補給地区を含む国道58号より西側の陸域及び海域を含む、南北に約5 km東西に約3 kmの範囲とします。





西海岸周辺エリアの 現状及び関連計画等

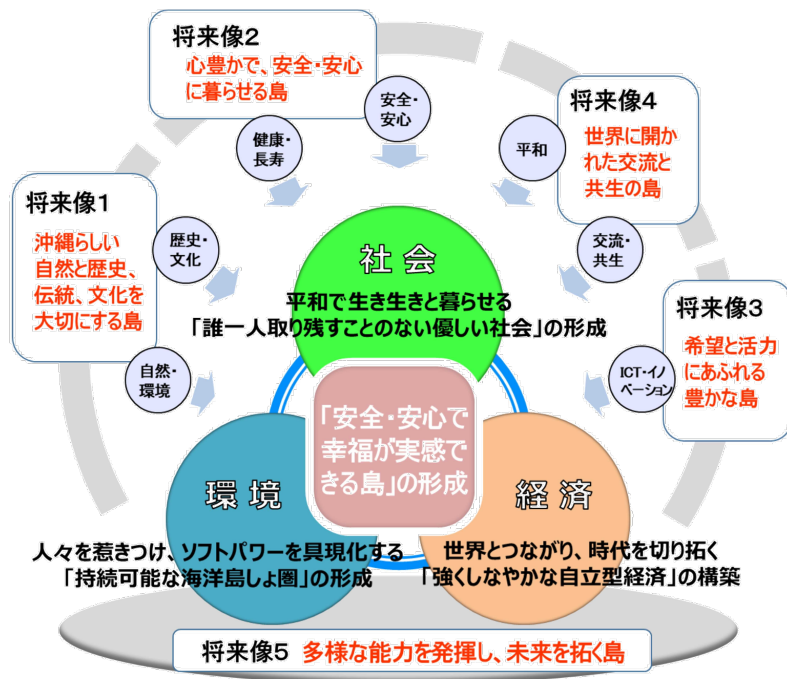
西海岸周辺エリアが目指す方向性について、沖縄県及び浦添市の上位計画には次の通りの方向性が示されています。

新・沖縄21世紀ビジョン基本計画 (沖縄振興計画) [R4.5]

新・沖縄21世紀ビジョン基本計画では、「安全・安心で幸福が実感できる島」の形成を基本的指針とし、SDGsの考え方を踏まえ、社会・経済・環境を統合した持続可能な地域づくりを進めることとしています。

<施策展開の基本方向>

1. 誰一人取り残さない社会の形成
2. 世界とつながる自立型経済の構築
3. 沖縄の特性を活かした持続可能な海洋島しょ圏の形成



第五次浦添市総合計画後期基本計画 [R8.3予定]

第五次浦添市総合計画は、本市の将来を展望するまちづくりの基本となる計画です。計画期間は、2021年度から、2030年度までの10年間とし、将来の都市像、まちづくりの目標、まちづくりの方向を次の通り示しています。

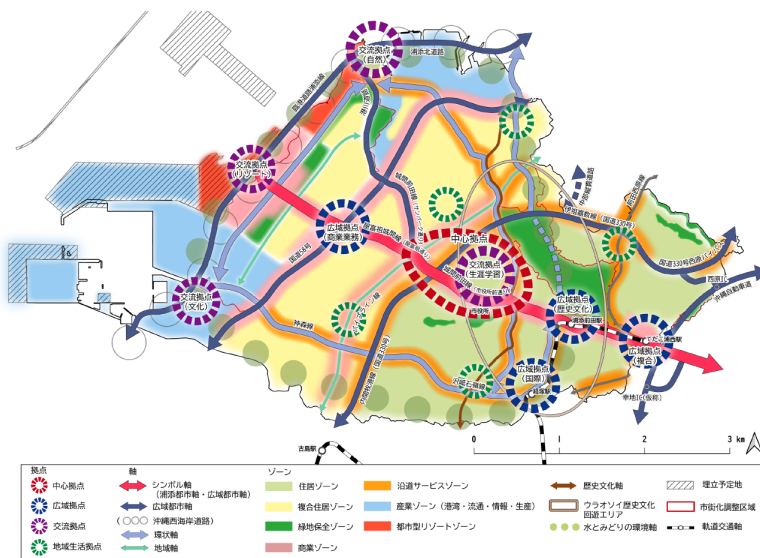
将来の都市像：てだこの都市（まち）・浦添

まちづくりの目標：～太陽とみどりにあふれた国際性ゆたかな文化都市～

- まちづくりの方向
1. 人と歴史を活かす未来創造都市
 2. 世界にはばたく多文化交流都市
 3. やさしさあふれる健康福祉都市
 4. 安全安心でやすらぎにみちた快適環境都市
 5. ひと・まち・未来が輝く市民協働都市

浦添市都市計画マスタープラン[R8.1]

浦添市都市計画マスタープランにおいて、西海岸周辺エリアでは、浦添ふ頭、那覇港長期構想に基づく埋立エリア、カーミージー周辺が交流拠点として位置づけられています。これらのエリアは、産業ゾーン、商業ゾーン、都市型リゾートゾーンとして区分されています。



① 上位・関連計画

Gate Way 2050 PROJECTS 基本構想（案）[R6.10]及びグランドデザイン[R7.5]の拠点イメージ

GW2050 PROJECTSは、沖縄の国際競争力の強化・持続的発展に向けた成長戦略を描いています。

那覇空港から普天間飛行場に至る西海岸地域を価値創造重要拠点と位置づけ、次代の沖縄の進化を象徴する「世界に開かれたゲートウェイ」として、将来像の具現化を図る

01 価値創造重要拠点

西海岸地域における那覇空港、那覇港、牧港補給地区、普天間飛行場跡地の4つのエリアを「価値創造重要拠点」として位置づけ、日本を牽引する沖縄の経済発展を目指すための指針を示す。

02 価値創造を支える4つの柱

1 沖縄らしい産業の創出

- 既存産業の高度化・高付加価値化を図りつつ、沖縄らしさを活かした国際競争力のある新たな産業の創出と活性化が求められる。
- 今後の沖縄県の産業・地域経済を支える柱となる次世代産業について検討・深堀する。

2 持続的発展を担う人材育成

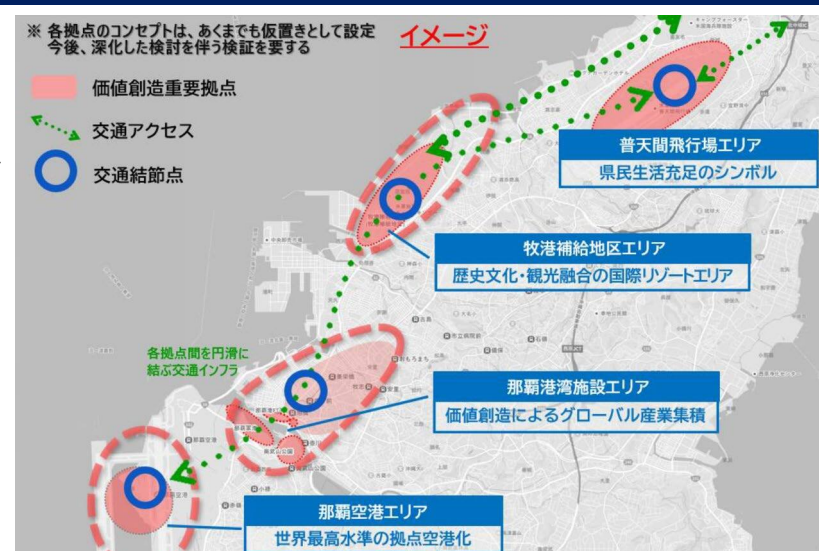
- 次代の沖縄を担う人材の育成に積極的に取り組むこととし、産業モデルの検討と合わせた段階的な人材育成モデルを検討。
- 観光の質向上を支える高度観光人材や、DX人材、経営人材、グローバル人材等の育成を積極的に行う。
- OISTを活かした科学技術人材、新産業人材育成の拠点形成を目指す。

3 那覇空港を起点とした交通網の整備

- 空港機能の拡充と連動し、空港を起点とした各エリア結節点への利便性を考慮した交通ネットワークを検討。
- 富裕層などに対応可能な、多様な交通機能の導入により、観光産業全体の高付加価値化に繋げる。

4 クリーンエネルギー社会の実現

- 日本を牽引するゲートウェイとして相応しい環境配慮型の空港整備・まちづくりを推進する。
- 2050カーボンニュートラルに果敢に挑戦するエリアとして、水素エネルギーの利活用等、新たな技術を積極的に実証・導入する。



GW2050 PROJECTS基本構想(案)の拠点イメージ (R7.5時点)

牧港補給地区跡地利用計画[R6.3]

西海岸エリアでは、牧港補給地区の返還を見据え、返還後の広大な跡地を対象として新たな都市機能の導入や土地利用の方向性を示す跡地利用計画を策定しています。

【基本的な考え方】

- 人と環境が共生する持続可能な都市の形成
- 新たな産業・雇用・交流機能の段階的な導入
- 住む・働く・訪れる・滞在する都市機能の形成
- 自然環境や地域資源を活かした都市環境づくり

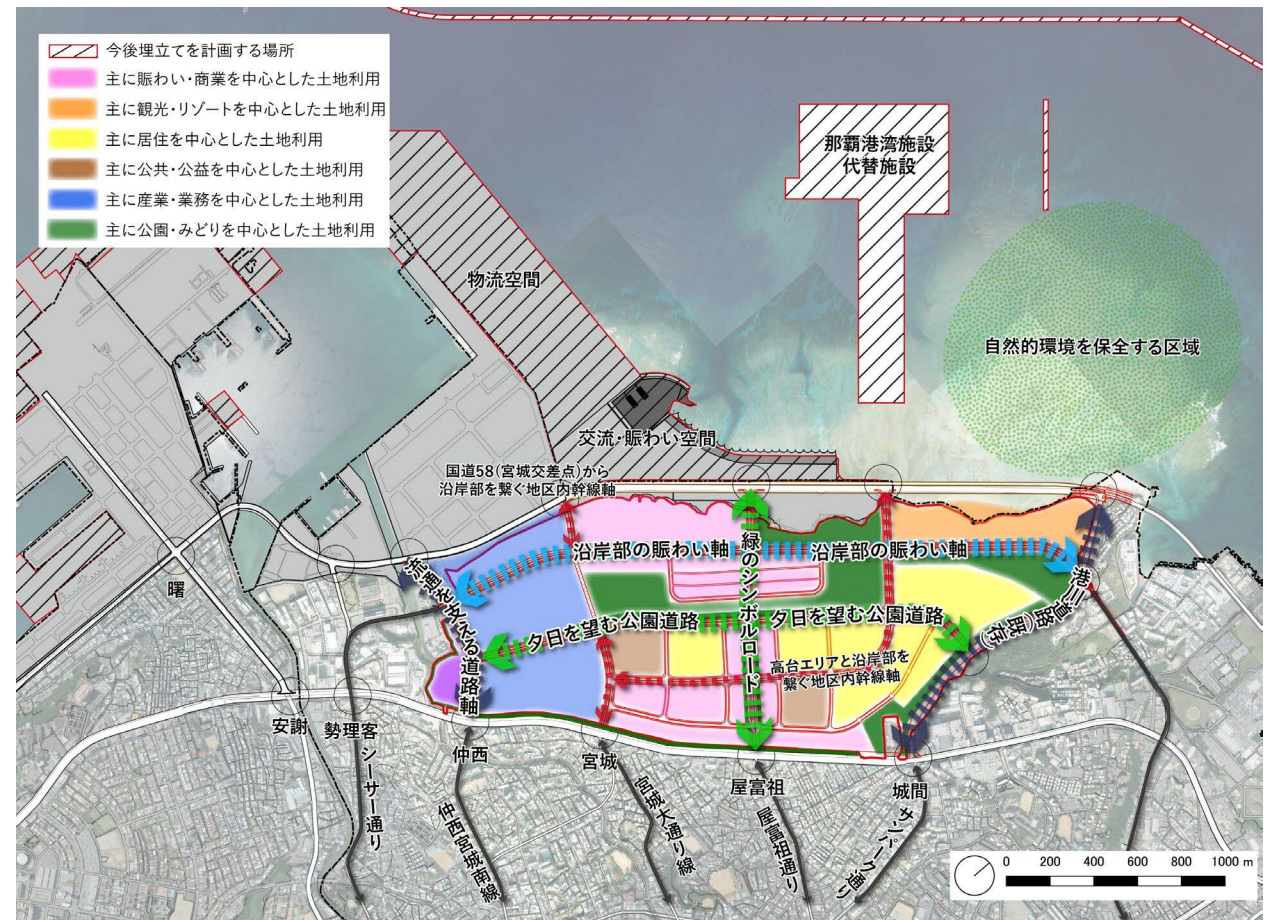
【コンセプト】

人と環境が共生するスマート・イノベーションシティ

【機能の導入方針】

1. 沖縄の経済を牽引する新たな産業を創出する機能
2. 新たな雇用や多様な働く場を生み出す機能
3. 創造したモノ・サービスを世界へ発信する機能
4. 人々を惹きつけ、賑わいを創出する機能
5. 人々が集い、様々な交流を生み出す機能
6. 人々が住み・働き・来訪者が滞在する機能
7. 質の高い教育・子育てを支える機能
8. 生活の健康・安全・安心を支える機能
9. 自然環境の保全に貢献する機能
10. 地域の資源を活かし、魅力を発信する機能

【土地利用ゾーニング図】



② 関連プロジェクト

那覇港長期構想[R4.4]・那覇港港湾計画[R5.3]

那覇港長期構想において、那覇港を沖縄県の基幹港として将来にわたり維持・発展させるため、おおむね20～30年先を見据え、港湾空間の将来像と段階的な整備の方向性を示す長期的な構想を示していることから、西海岸周辺エリアでは物流・産業機能に加え、交流・賑わい機能の導入を重要な柱の一つとして位置づけ、将来の需要や機能転換を見据えた、新たな埋立てを含む港湾空間の再編・高度利用を検討しています。

【構想の基本的な考え方（那覇港長期構想）】

- 那覇港を「物流・産業を支える港」から、人が集い、交流し、賑わいが生まれる港湾空間へと発展させる
- 港湾機能の高度化・再編とあわせて、港とまち、水辺と市街地がにつながる空間形成を図る
- 安全・安心、環境への配慮、持続可能性を前提とした港湾整備を進める

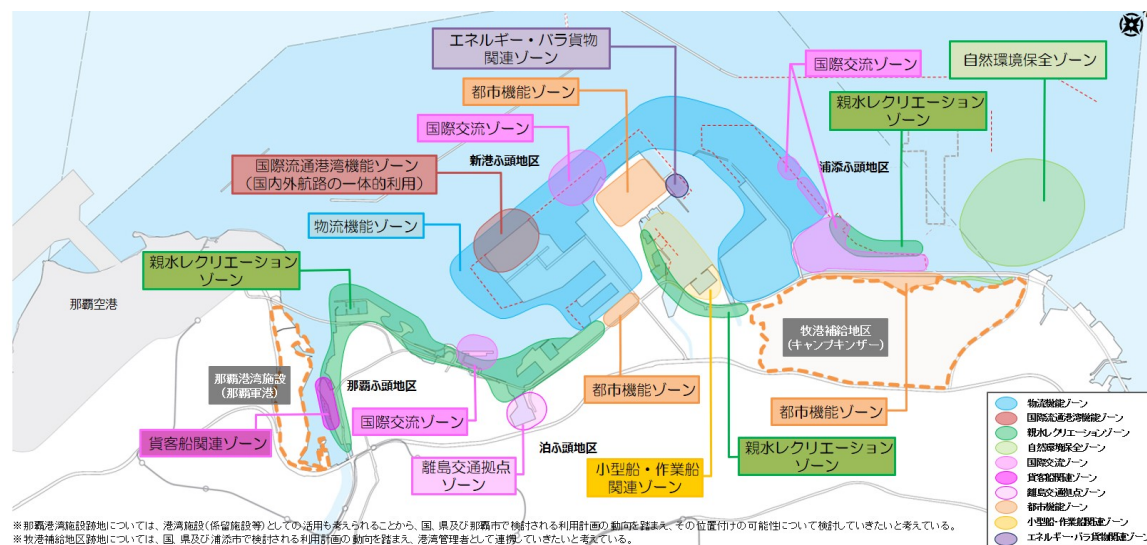
【港湾空間利用の方向性（那覇港長期構想）】

- 将来の需要や機能転換を見据え、新たな埋立てを含む港湾空間の再編・高度利用を検討
- 埋立てにより創出される空間については、機能ごとにゾーンを整理し、計画的な土地利用を図る
- 既存港湾エリアと新規埋立地を一体的に捉え、那覇港全体としての機能向上を目指す

【交流・賑わいゾーンの考え方（那覇港長期構想）】

- 新たに創出される港湾空間等を活用し、交流・賑わい機能を担うゾーンの形成を検討
- 水辺空間を活かした滞在・交流の場の創出
- 観光・クルーズ機能等と連動した賑わいの形成
- 県民や来訪者が日常的に利用できる港湾空間の実現

【港湾空間利用計画（ゾーニング）（那覇港港湾計画）】



西海岸周辺エリアは、那覇空港や那覇市中心部、港湾と高いアクセス性を有する立地であり、陸・海・空の交通結節点に近接しています。

交通アクセス

【空港からのアクセス】

- 那覇空港から車で約20分の立地です。
- 西海岸道路の整備により、将来的には約10分程度に短縮される見込みです。
- 空港からのアクセス性が高く、来訪者の受け入れに優れた立地となっています。

【道路ネットワーク】

- 国道58号をはじめとする沖縄の主要幹線道路に近接しています。
- 浦添北道路、港川道路等の都市計画道路の整備により、那覇市内及び県内各地からのアクセス性が向上しました。

【海からのアクセス】

- 那覇港に近接し、クルーズターミナルからのアクセスが良好です。
- 将来的には、那覇港の長期的な整備により、本エリア周辺への海上交通・交流機能の展開が期待されます。
- 海の玄関口にも近接した立地としてのポテンシャルを有しています。

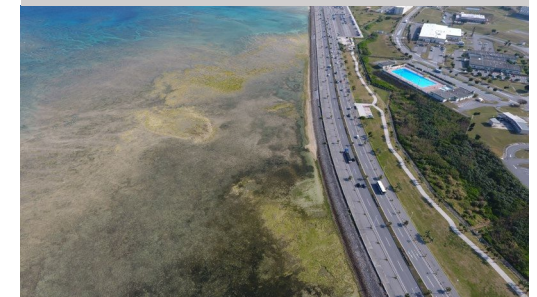
都市計画道路の整備状況（令和6年時点）



国道58号



臨港道路

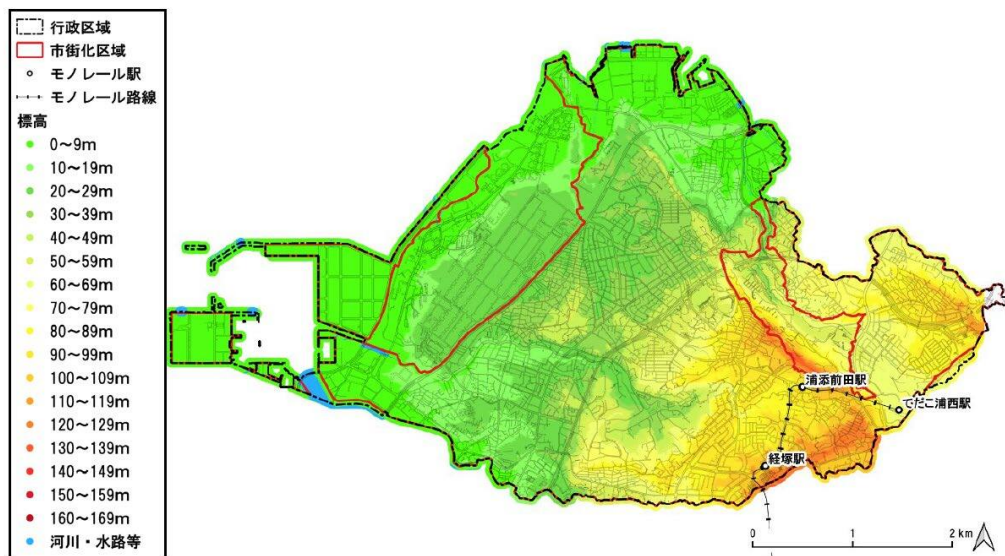


③ 西海岸周辺エリアの現状

西海岸周辺エリアは、海に面して低平な地形が広がることから、津波・高潮浸水・液状化の想定区域が含まれており、地形や災害特性を踏まえた土地利用や施設配置を検討していくことが重要なエリアとなっています。

地 形

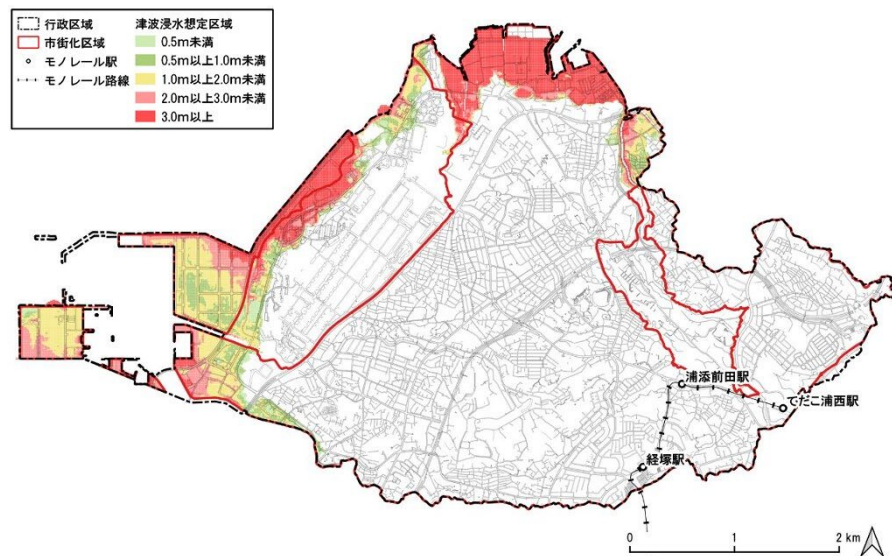
- 海岸線から標高10m未満の低平な地形が、内陸側へ約500m程度広がっています。
- 地区東側には、国道58号沿道を中心に標高30m程度の高台が形成されています。
- 牧港補給地区の一部には高台が存在し、地区全体としては西から東に向かって緩やかに標高が高くなる地形となっています。



出典：国土地理院基盤地図情報

浸 水 想 定 区 域

- 津波・高潮等による浸水想定区域が沿岸部を中心に分布しています。
- 特に、サンエー浦添西海岸PARCOシティ周辺及び港川エリア、牧港エリアは、津波浸水想定5.0m以上のエリアが含まれています。

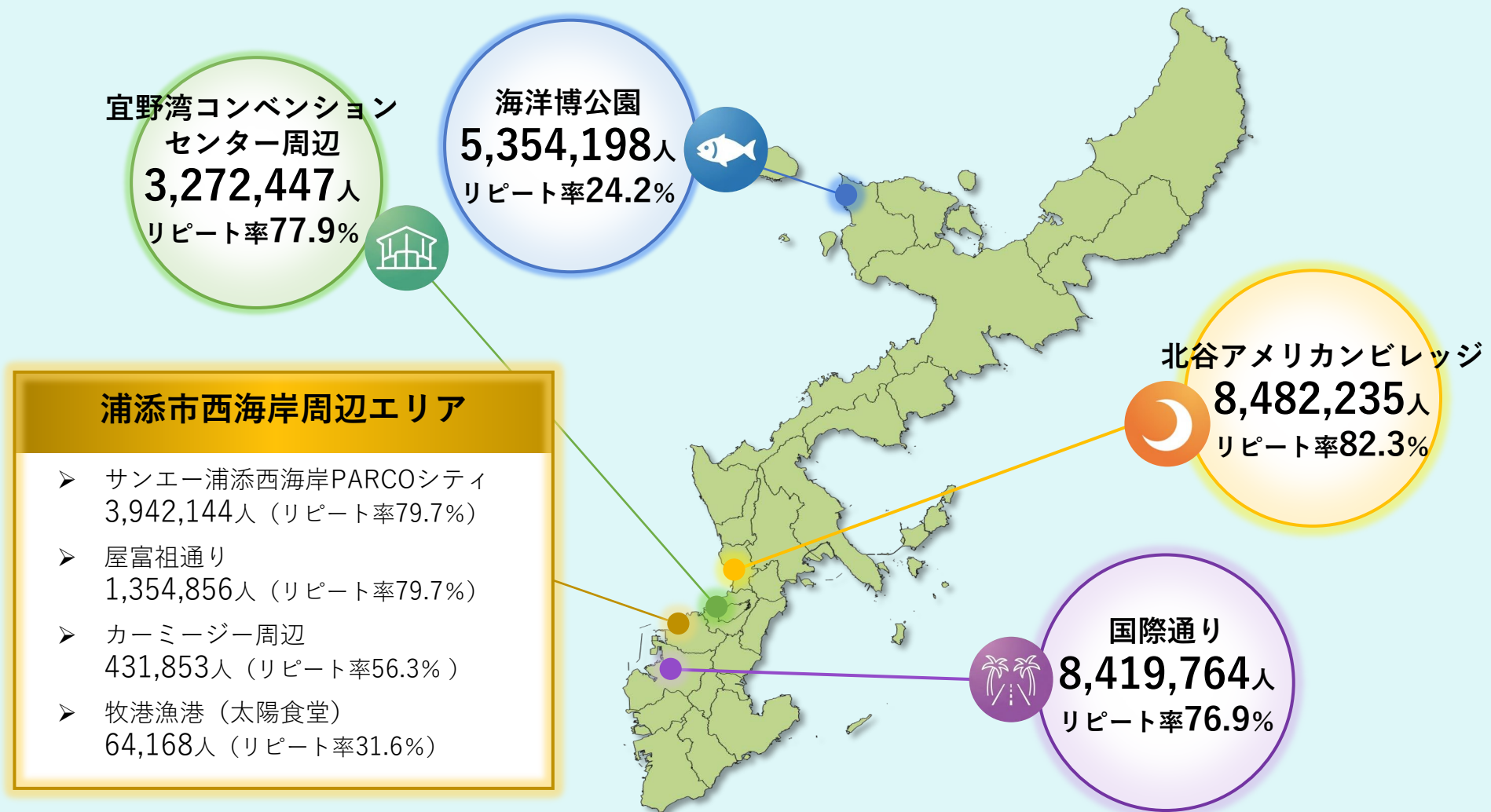


出典：沖縄県地図情報システム

③ 西海岸周辺エリアの現状

西海岸周辺エリアは、那覇市をはじめとする中南部都市圏や、沖縄県全体に対して、交流・回遊の拠点となり得る立地特性を有しています。

沖縄県における主な施設等への来訪者数



※NTT DocomoのGPSデータを基にArea Marketerから算出した、2025年1年間におけるエリア内に15～360分滞在した人数

※リピート率 = (延べ来訪者数 - ユニーク来訪者数) ÷ 延べ来訪者数

③ 西海岸周辺エリアの現状

西海岸周辺エリアは、貴重な自然環境を活かして、観光、研究、産業等と連携し、広域的な経済活動の活性化につながる可能性を有しています。

自然環境・地域資源

- カーミージー周辺には、岩礁やサンゴ礁が分布し、西海岸ならではの自然景観が形成されています。
- 港湾計画において自然的環境を保全する区域が設定されるなど、環境面での配慮が求められるエリアです。
- 港川周辺には、砂浜や遠浅の海域（イノー）が広がり、自然観察や環境学習の場としての特性を有しています。
- これらの自然資源は、地域の暮らしや産業と密接に関わりながら受け継がれています。



浦添の歴史

- 良港に恵まれ、12世紀の頃には、アジアとの交易によって経済的繁栄と豊かな文化をつくりあげ、琉球史のあけぼのともいえる王都の歴史が、浦添の地から始まりました。
- 古琉球には約220年間、舜天王統（1187～1260年）、英祖王統（1260～1350年）及び察度王統（1350～1406年）が、浦添グスクを居城とし、琉球の政治・経済の中心として繁栄しました。
- 琉球のイメージとして、赤瓦の屋根や龍が広く知られていますが、浦添に王都があった古琉球の時代は、屋根は灰色の瓦（高麗系瓦）が多く使われていた他、太陽と鳳凰が王権の象徴とされていました。



高麗系瓦



太陽と鳳凰のデザインイメージ

西海岸周辺エリアの現状や上位計画等の考え方に基づき、エリアづくりにあたり次の4つの視点を重視します。

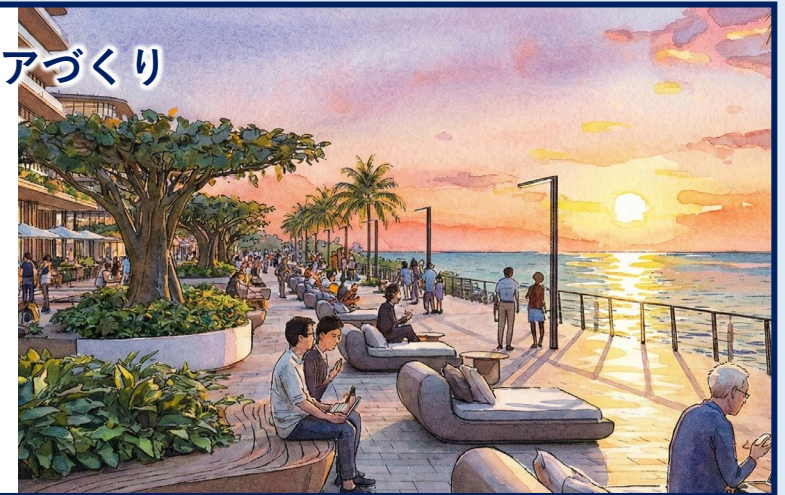
視点1 美しい自然をはじめとする地域資源を尊重し、活用するエリアづくり

本エリアには、西海岸の美しい海が広がり、那覇港港湾計画においてもカーミージー周辺の海域が自然的環境を保全する区域として位置づけられています。一方、サンゴ礁をはじめとする自然環境は、近年の気候変動や海の環境変化により、徐々に失われつつあります。こうした中、自然に触れ合う機会の創出を通じてその大切さを共有するとともに、自然環境の保全を図り、自然の持つ多様な機能を活かした取組みを進めることが求められます。地域の特性を踏まえ、必要かつ適切な開発と自然環境の保全を両立したエリアづくりを目指します。



視点2 沖縄中南部を代表する新たな拠点として人が集まるエリアづくり

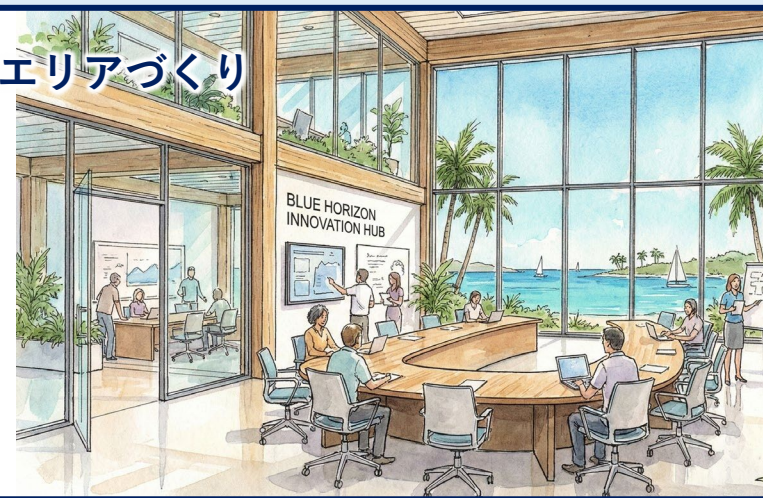
沖縄の西海岸は美しい海と夕日を望む人々を魅了する場所です。現在、那覇港、宜野湾、北谷等の西海岸を代表する拠点がある中、本エリアが沖縄県中南部エリアの新たな拠点として、多くの人々が訪れたいと思うコンテンツ・機能、良好なアクセス、滞在環境等を提供し、沖縄中南部西海岸周辺エリアの価値向上を図ります。



④ 西海岸周辺エリアづくりに求められる視点

視点3 沖縄の産業・経済を牽引する人・技術・投資を呼び込むエリアづくり

沖縄の新たな産業として注目されるブルーエコノミーの発展を見据え、海や水産資源等を活用した新たな産業の創出を目指します。牧港補給地区の跡地利用を核とし、西洲地区や浦添ふ頭地区等と連携することで、研究・実証・事業化が連続的に展開されるイノベーション拠点の形成を図ります。こうした取組みを通じて、世界から人材・技術・投資を呼び込み、沖縄の人材育成と県内経済を牽引するエリアづくりが求められます。



視点4 訪れる人・暮らす人が安全・安心で、豊かに過ごせるエリアづくり

西海岸周辺エリアは、海岸沿いに位置し、一部が浸水想定区域に含まれています。そのため、本エリアにおいては、地震や津波等の災害時に人の命を守る安全・安心の確保を前提とし、日常時においても、訪れる人や暮らす人が健康で心豊かに過ごせる環境づくりが重要です。西海岸ならではの美しい海や開放的な景観を活かしながら、防災性と快適性を両立した、エリアづくりが求められます。



浦添の西海岸周辺エリアは、沖縄を代表する新たな拠点を目指します



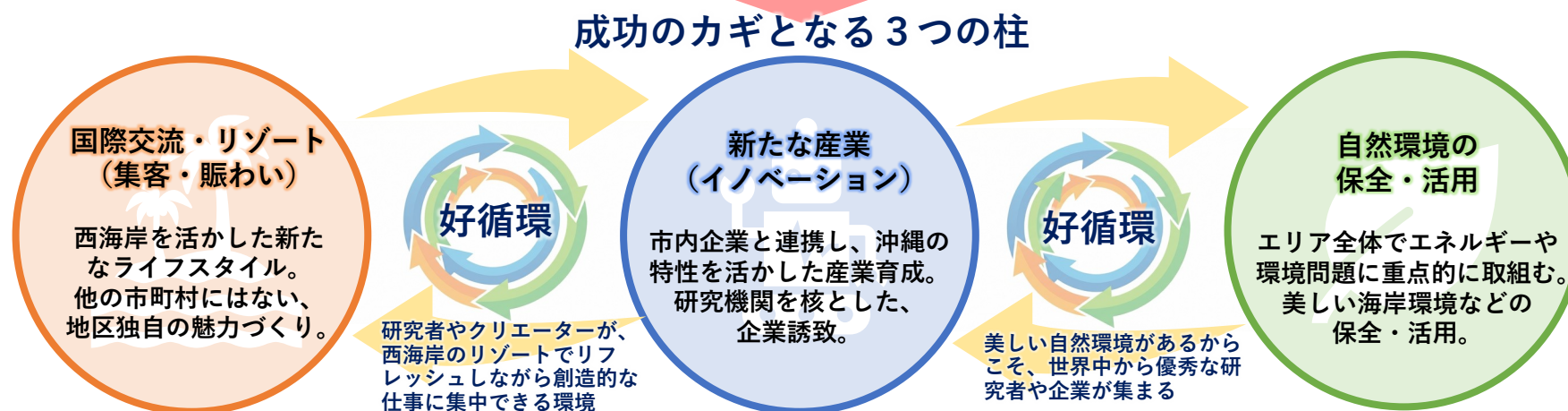
西海岸周辺エリアの 目指す方向性・将来像

① 西海岸周辺エリアの将来像

西海岸周辺エリアは、豊かな自然環境を基盤としながら、産業・交流・暮らし・安全といった多様な要素が重なり合うエリアです。本基本構想では、自然環境の保全・活用を1つの柱としつつ、新たな産業の創出や国内外から人を呼び込むリゾートとしての賑わい形成を一体的に進めることで、持続可能な新たな産業拠点の形成を目指します。

西海岸周辺エリアの目指す姿

『持続可能な新たな産業拠点の形成』～自然・産業・暮らしがめぐる西海岸～



基本的な土台



防災・安全
地震や津波に強く、市民・来訪者・企業が安心できる環境の形成



歴史・文化
浦添の歴史（古琉球）を活かしたまちづくり



交通・インフラ
先端技術を使った、環境に優しく快適な交通網



運営体制
地権者・関係者・企業と連携したエリア一体的なマネジメント

期待される波及効果



企業・産業へ
浦添市及び、沖縄県全体のビジネスが活性化する。



市民・県民へ
浦添市民・沖縄県民の生活が豊かになる。



経済へ
沖縄県全体が、自立して経済発展していく。

② 西海岸周辺エリアのコンセプト及び取組み方針

前項で示す本地区の目指す姿の実現に向けて、その基本的な土台の1つである歴史を見ると、沖縄が西海岸の海に目を向け、貿易等を盛んに進めたのが、浦添に王朝があった「古琉球時代」と言われています。

西海岸周辺エリアが目指すまちづくりのコンセプトは、西海岸に広がる美しい海に再び目を向け、海を大切に新しい未来の拠点づくりを進めていくという強い思いを示し、その実現に向けた4つの方針と共に次の通り定めます。

西海岸周辺エリアのコンセプト

海とともに生きる未来拠点、 「古琉球・浦添リーフエリア」の実現



① 自然環境の保全・啓発の推進



② 豊かな自然を身近に感じ、
親しむことのできる海辺環境の形成



③ 海洋資源を起点とした
持続可能な産業・経済の創出

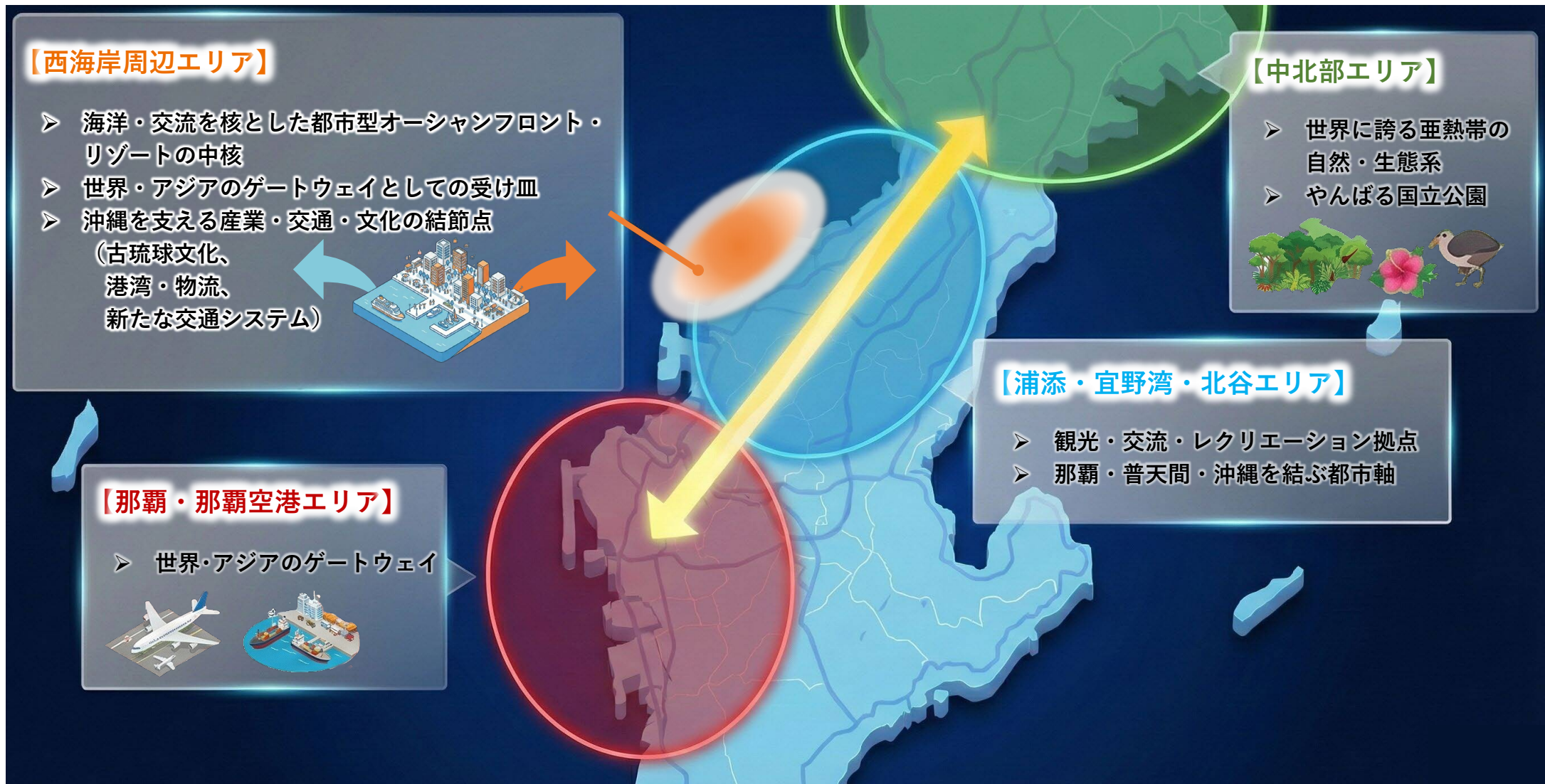


④ 西海岸周辺エリアの安全・安心環境整備

③ 西海岸周辺エリアの広域的な位置づけ

西海岸周辺エリアは、沖縄の広域的な拠点の1つとして、那覇エリア、浦添・宜野湾・北谷エリア、やんばるエリアといった沖縄県内の主要エリアと連携しながら、沖縄の魅力を高めていきます。

本基本構想では、既存の広域的な都市・観光構造を踏まえ、浦添・宜野湾・北谷エリアの中において、浦添の西海岸周辺エリアの特性を活かしたエリアづくりを推進します。





西海岸周辺エリアで進める 先行プロジェクト

4

西海岸周辺エリアで進める4つの先行プロジェクト

西海岸周辺エリアの将来像の実現に向けて、牧港補給地区の跡地利用や那覇港港湾計画に基づく計画等現在検討中の長期プロジェクトと並行して、次の早期実現を図る4つの先行プロジェクトを掲げ段階的な推進を目指します。



プロジェクト1:自然環境の保全・活用・啓発プロジェクト ～カーミージー周辺におけるウォーターパーク開発構想～

→浦添の豊かな海洋環境の保全・活用・啓発(自然保全の学習や魅力発信)を図るプロジェクト



プロジェクト2:海浜の適正な管理・利活用プロジェクト ～港川周辺における海浜公園整備構想～

→子どもたちを始め浦添市民、来訪者誰もが美しい海に親しむ環境を守り育てるプロジェクト



プロジェクト3:海を活かした産業振興・育成プロジェクト ～牧港漁港における漁業環境改善と海業育成に向けた再開発構想～

→漁業環境の改善による漁業振興や海業の展開等ブルーエコノミーを推進するプロジェクト



プロジェクト4:安全・安心環境の整備プロジェクト ～西洲避難道路整備事業～

→災害等に備え、海側から高台への避難道路・緊急輸送路を確保するプロジェクト

プロジェクト位置図



プロジェクト1:自然環境の保全・活用・啓発プロジェクト

～カーミージー周辺におけるウォーターパーク開発構想～

浦添の豊かな海洋環境の保全・活用・啓発（自然保全の学習や魅力発信）を図るプロジェクト

カーミージー周辺やその沖合は、那覇港港湾計画において「自然的環境を保全する区域」と位置付けられ、豊かな海洋生態系と美しい海が広がり、市民にとっても観光来訪者にとっても貴重な自然環境を有しています。今後、牧港補給地区の返還により新たに広域的な拠点形成が期待される中、こうした貴重な自然環境を活かしたエリアづくりを検討します。

本プロジェクトは、浦添の海・沖縄の海の魅力と価値をより多くの人に知ってもらい、さらには次世代に継承するため、カーミージー周辺エリアにおいて「自然環境保全の普及・啓発を目的」とした新たな学習・体験の場となる広域的な拠点づくりを進めるものです。

そのため、このエリアにおいて、自然環境の保全に努め、その活用により普及・啓発を行う機能導入を推進します。

※イメージは、AIで作成したコンセプトイメージです。

将来の姿を具体的に示すものではなく、エリアづくりの考え方や方向性を共有することを目的としています。

プロジェクトの実現に向けて検討する主な取組みイメージ

1. “自然観察・研究の場、自然保全の重要性を普及・啓発する拠点”の創出

- カーミージーに広がる自然環境の観察、漂着物等の除去を含む環境改善、研究活動等を行うことを目的とし、自然環境に配慮した浮棧橋等の設置・整備を行う。〔短期実施事項〕
- 自然的環境を保全する区域に指定された沿岸部において、自然環境の改善を図る。〔短～中期実施事項〕
- 豊かな自然環境の学習・保全の重要性等の啓発を行う施設の整備を推進。〔中～長期実施事項〕
- 普及・啓発の対象となる人々が多く訪れ、安全・安心で長く滞在したくなる集客・宿泊等の機能を導入する。〔長期実施事項〕

2. 自然環境の保全・啓発を図るプログラムの実施

- サンゴ・藻場・海洋生物の観察や研究、海岸環境に関する学習機会を創出する。〔短～長期実施事項〕
- 沖縄の豊かな海の自然環境の魅力とその保全の重要性を発信する。〔短～長期実施事項〕

3. 地域・行政・教育機関・民間企業等と連携した継続的な運営体制の構築

- 浮棧橋の整備、各種プログラムの実施、研究活動等を推進する持続可能な管理／運営手法を構築する。〔短～長期実施事項〕

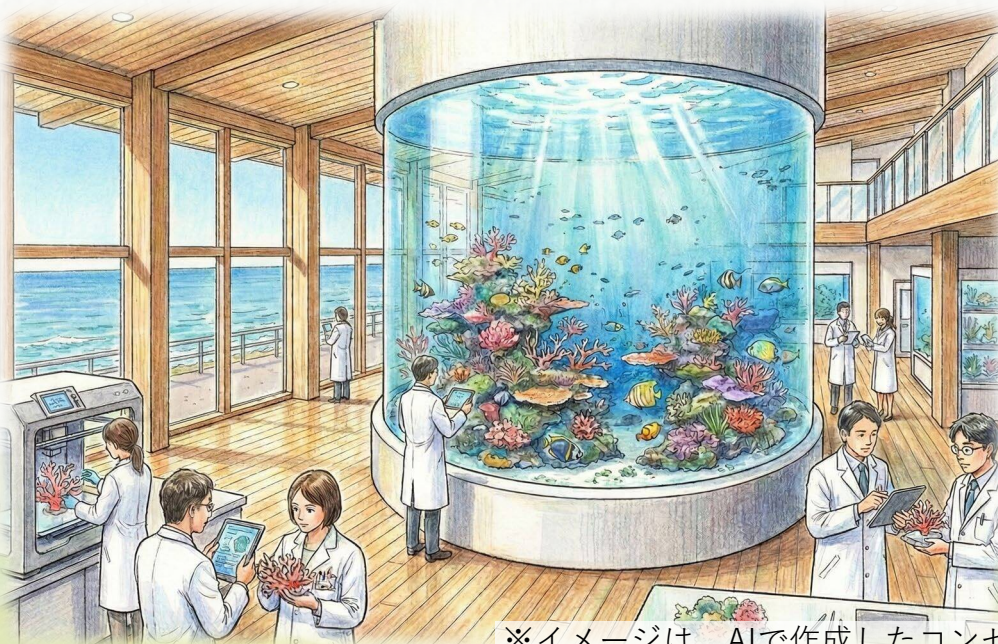


～カーミージー周辺におけるウォーターパーク開発構想～

【ゾーニングイメージ】



エリアイメージ



※イメージは、AIで作成したコンセプトイメージです。
将来の姿を具体的に示すものではなく、エリアづくりの考え方や方向性を共有することを目的としています。

～港川周辺における海浜公園整備構想～

子どもたちを始め浦添市民、来訪者誰もが美しい海に親しむ環境を守り育てるプロジェクト

港川周辺の海域は、カーミージーの岩礁から自然の砂浜が形成されており、地域住民や来訪者が海に触れられる貴重な場所となっています。今後、海浜環境の変化や周辺エリアの利用増加が見込まれる中、安全・快適に海に親しめる持続可能な環境づくりを検討します。



本プロジェクトは、港川の海を「地域の方々をはじめ誰もが海と共に過ごし、学び、育てる」場として再生し、ここを訪れる方々と共に持続的にエリアづくりを進めるものです。
自然環境に配慮し、こうした場の需要に応じて、より快適な環境づくりを段階的に検討します。

※イメージは、AIで作成したコンセプトイメージです。
将来の姿を具体的に示すものではなく、エリアづくりの考え方や方向性を共有することを目的としています。

プロジェクトの実現に向けて検討する主な取組みイメージ

1. 自然の砂浜を活かした“快適な自然環境へのふれ合いの場”の創出

- カーミージーに広がる自然の砂浜を活かし、市民をはじめ誰もが安全・安心かつ快適に海水浴等、自然環境にふれ合うことができるよう、「海水浴場」の開設と適切な利用ルールづくりを行う。〔短期実施事項〕
- サンゴ等の自然環境への影響に配慮し、簡易構造のフロートを用いて誰もが海で安心して楽しめるレクリエーション機能を導入する。〔短～中期実施事項〕
- 沖縄の「自然環境へのふれ合い」にあたって、自然環境学習に必要な施設等を備える拠点の整備を行う。〔中～長期実施事項〕
- 利用者のニーズに応じて、自然環境への影響に配慮しつつ、海水浴場の拡大や緑地・広場等を整備する。〔長期実施事項〕

2. 海上交通を中心に多様な交通手段の導入によるアクセス性の向上

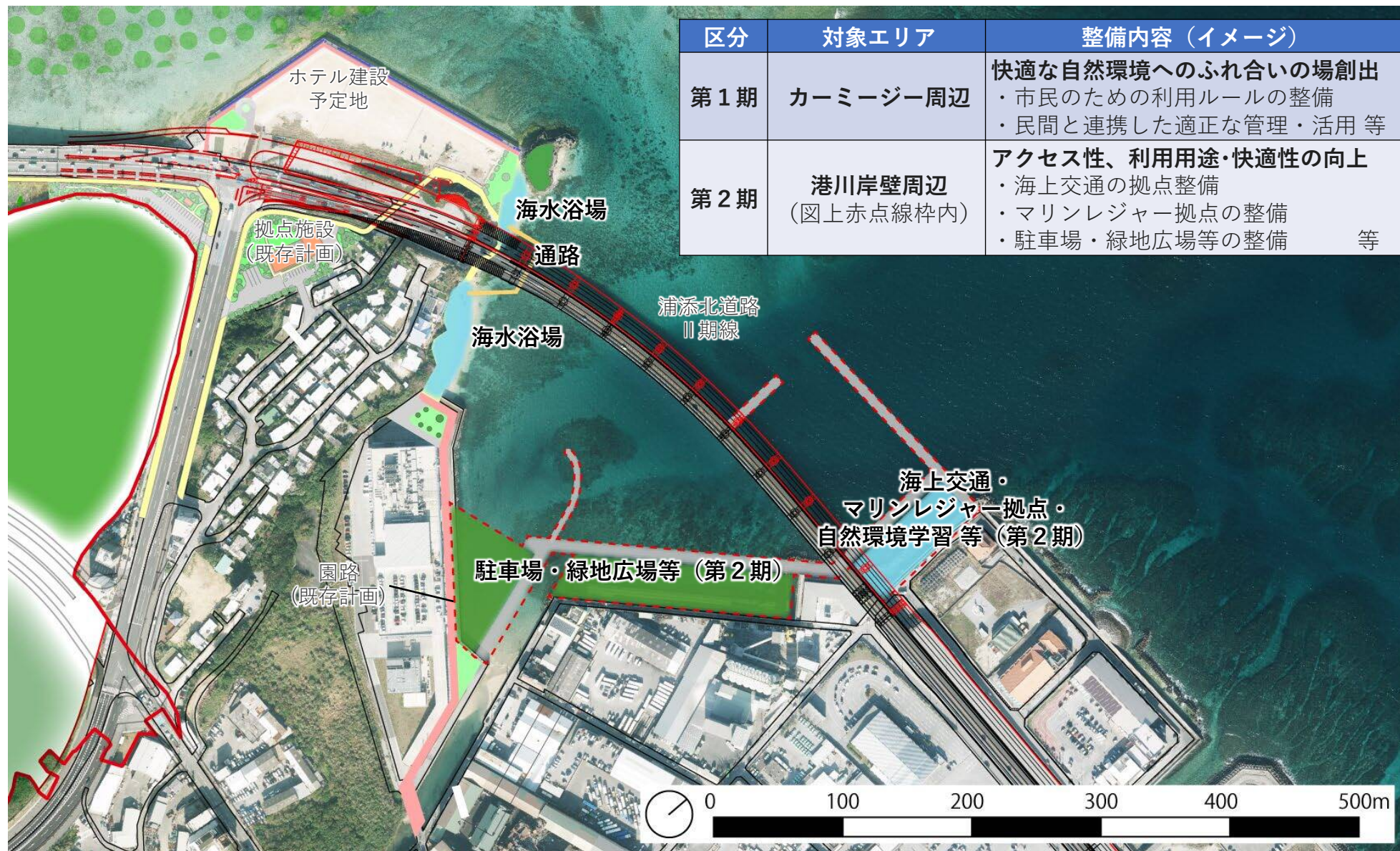
- 誰もが快適かつ円滑にアクセスできるよう、歩行者動線を確保するとともに、沖縄県内の他拠点と浦添を繋ぐ、シーバスやシータクシー、水上飛行機等の離発着ができる海上交通拠点を整備する。〔長期実施事項〕
- マリンレジャー等の拠点となるマリーナの整備を行う。〔長期実施事項〕
- 利用ニーズに応じた車両でのアクセス等に対する駐車場を整備する。〔長期実施事項〕

3. 地域や民間企業等と連携した自然環境の維持・管理

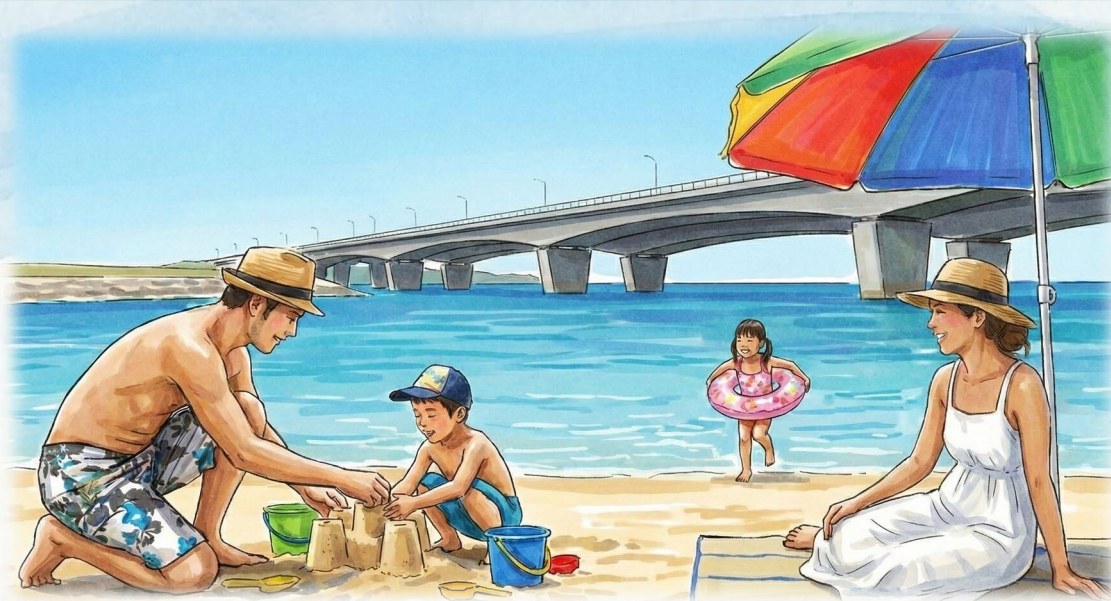
- 地域主体によるビーチ清掃、海洋環境学習、子ども向け自然観察イベント等の開催。〔短期実施事項〕
- 民間企業と連携した安全で快適な海水浴場の管理・運営。〔短期実施事項〕
- 学校・地域団体・ホテル等と協働し、海を守る意識を育む取り組みを推進。〔短～中期実施事項〕

～港川周辺における海浜公園整備構想～

【ゾーニングイメージ】



エリアイメージ



※イメージは、AIで作成したコンセプトイメージです。
将来の姿を具体的に示すものではなく、エリアづくりの考え方や方向性を共有することを目的としています。

プロジェクト3:海を活かした産業振興・育成プロジェクト

～牧港漁港における漁業環境改善と海業育成に向けた再開発構想～

漁業環境の改善による漁業振興や海業の展開等ブルーエコノミーを推進するプロジェクト

牧港漁港は、長年地域の水産業を支えてきた重要な拠点です。一方で、施設の老朽化や周辺環境の変化により、安全で持続可能な漁業運営の再構築が求められています。全国的に法改正※により漁港に求められる役割が増える中、漁業環境の改善とさらなる水産業の発展に向けた新たな機能導入を検討します。

※漁港漁場整備法の改正（R6.4.1施行）

本プロジェクトは、牧港漁港を中心に「水産業を核とした働く場・暮らしの場・憩いの場」という多面的価値を創出し、漁業施設の更新・集約による漁業環境の改善と、地域や来訪者が豊かな海の恵みに触れ、学び、それらを通じて交流できる新たな「海業」活動の拠点づくりを進めるものです。

漁業の持続性を高めながら、海と共に生きる地域文化を育む“次世代の漁港”を実現します。

※イメージは、AIで作成したコンセプトイメージです。

将来の姿を具体的に示すものではなく、エリアづくりの考え方や方向性を共有することを目的としています。

プロジェクトの実現に向けて検討する主な取組みイメージ

1. 浦添の漁業を支える牧港漁港における漁業操業環境の改善・向上

- 老朽化し煩雑化した漁具倉庫を整理し、新たな漁具倉庫を整備する。〔短期実施事項〕
- 老朽化し利用が困難になっている給油施設の代替として、大型漁船の利用を想定した給油施設の整備を行う。
〔短～中期実施事項〕
- 漁業の作業効率や安全性を高めるための動線確保やアスファルト舗装を行う。〔中期実施事項〕
- 今後の漁港利用の増加に合わせた係留場所の増設や船揚場の拡大を行う。〔中～長期実施事項〕
- ブルーエコノミーとして注目される沖縄の養殖業に資する既存の養殖施設について、老朽化に伴う改修を行う。
〔中～長期実施事項〕
- 水揚げされた魚種や養殖魚種等の加工、冷凍施設等を整備し、ブルーエコノミーの1つとして、新たな水産品の開発を行う。
〔中～長期実施事項〕

2. 漁業の発展を牽引し、西海岸周辺エリアの賑わいを生み出す海業の導入

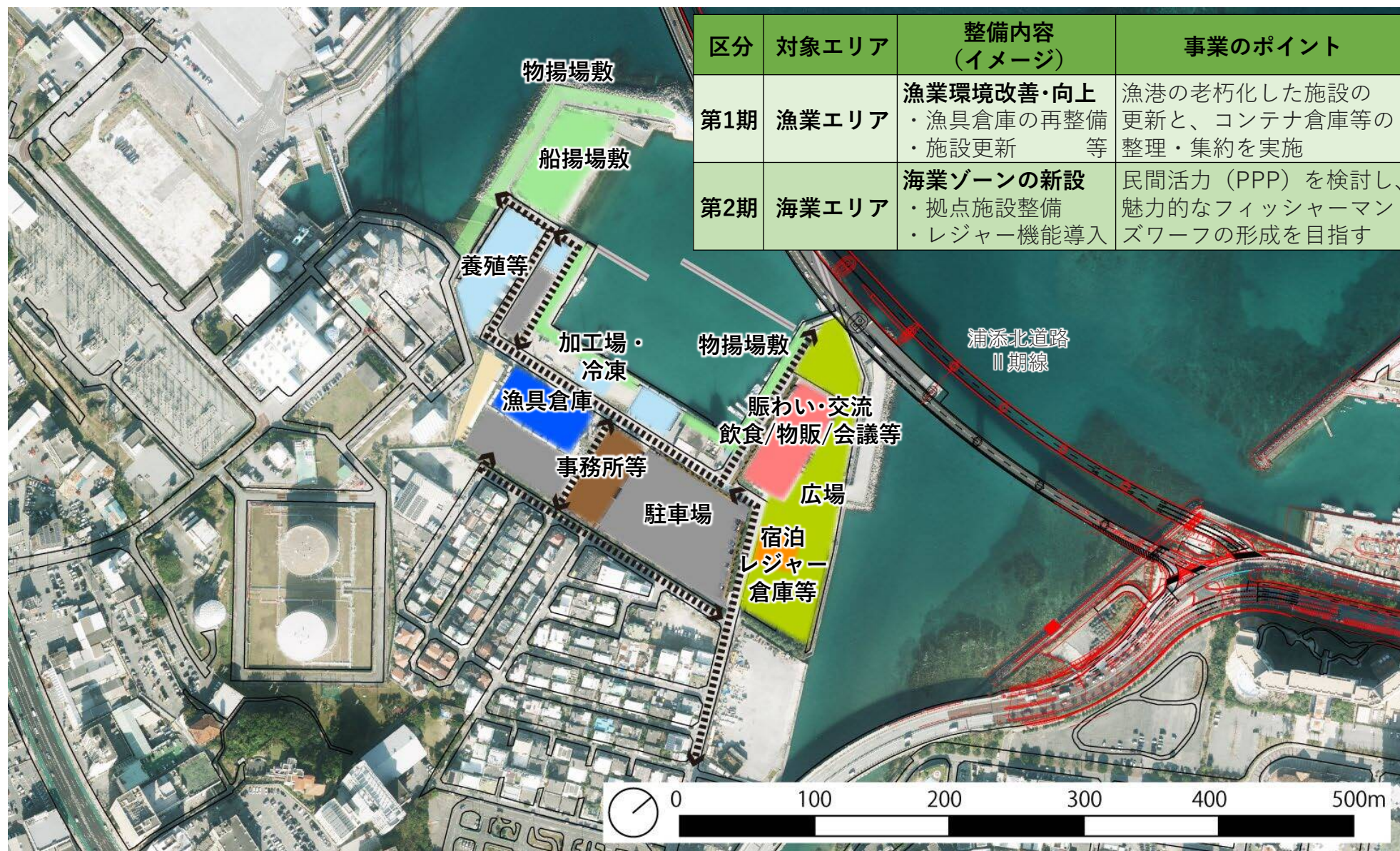
- 水揚げされた海産物等を消費するBBQや飲食等を行う芝生広場を整備する。〔長期実施事項〕
- 牧港漁港及び周辺において、訪れる人々が安全・安心に滞在できる機能、水揚げされた海産物等を販売する物販機能、漁業・海業に関する研究・開発・関係者の交流が行える業務機能や会議機能、長期滞在を可能にする宿泊機能等を導入する。
（「ブルーエコノミー特化型MICE」や「フィッシャーマンズワーフ」の形成）〔長期実施事項〕
- 沖縄県内の他拠点と浦添市を繋ぐ、シーバスやシータクシー、水上飛行機等の離発着ができる海上交通拠点を整備する。
〔長期実施事項〕
- マリンレジャー等の利用を想定した倉庫や専用の係留場所の整備を行う。〔長期実施事項〕

※海業（うみぎょう）：漁村の人々が、海や漁村に関する地域資源の価値や魅力を活用して所得機会の増大等を図る取組（水産庁資料）

※ブルーエコノミー：海洋生態系の健全性を維持しながら、経済成長、生計の向上、雇用のために海洋資源を持続的に利用すること（世界銀行HP[2024]）

～牧港漁港における漁業環境改善と海業育成に向けた再開発構想～

【ゾーニングイメージ】



エリアイメージ



※イメージは、AIで作成したコンセプトイメージです。
将来の姿を具体的に示すものではなく、エリアづくりの考え方や方向性を共有することを目的としています。

～西洲避難道路整備事業～

災害等に備え、海側から高台への避難道路・緊急輸送路を確保するプロジェクト

西海岸周辺エリアは牧港補給地区が返還されるまでの間、海側から内陸部の国道58号へのアクセスが限られており、地震・津波・風水害などの災害に対する安全性の確保が課題となっています。



本プロジェクトは、西海岸周辺エリアにおいて、災害時にも人命を最優先に守ることができるよう、海側からの避難動線や緊急輸送機能を確保し、安心・安全な地域環境づくりを進めるものです。

※イメージは、AIで作成したコンセプトイメージです。

将来の姿を具体的に示すものではなく、エリアづくりの考え方や方向性を共有することを目的としています。

1. 災害時に安全な高台に迅速に避難するための動線確保

- 津波・高潮等の災害発生時を想定し、海側の臨港道路から高台及び国道58号へ向かう避難動線を整備する。〔短～長期実施事項〕

【段階的な整備の推進】

- ◆ 臨港道路から牧港補給地区第5ゲート周辺までの避難道路を整備し、牧港補給地区第5ゲート周辺から国道58号までは既存道路を活用した避難動線とする。〔短～中期実施事項〕
- ◆ 牧港補給地区第5ゲート周辺から国道58号まで、十分な幅員の避難道路を整備する。〔長期実施事項〕

【想定される利用】

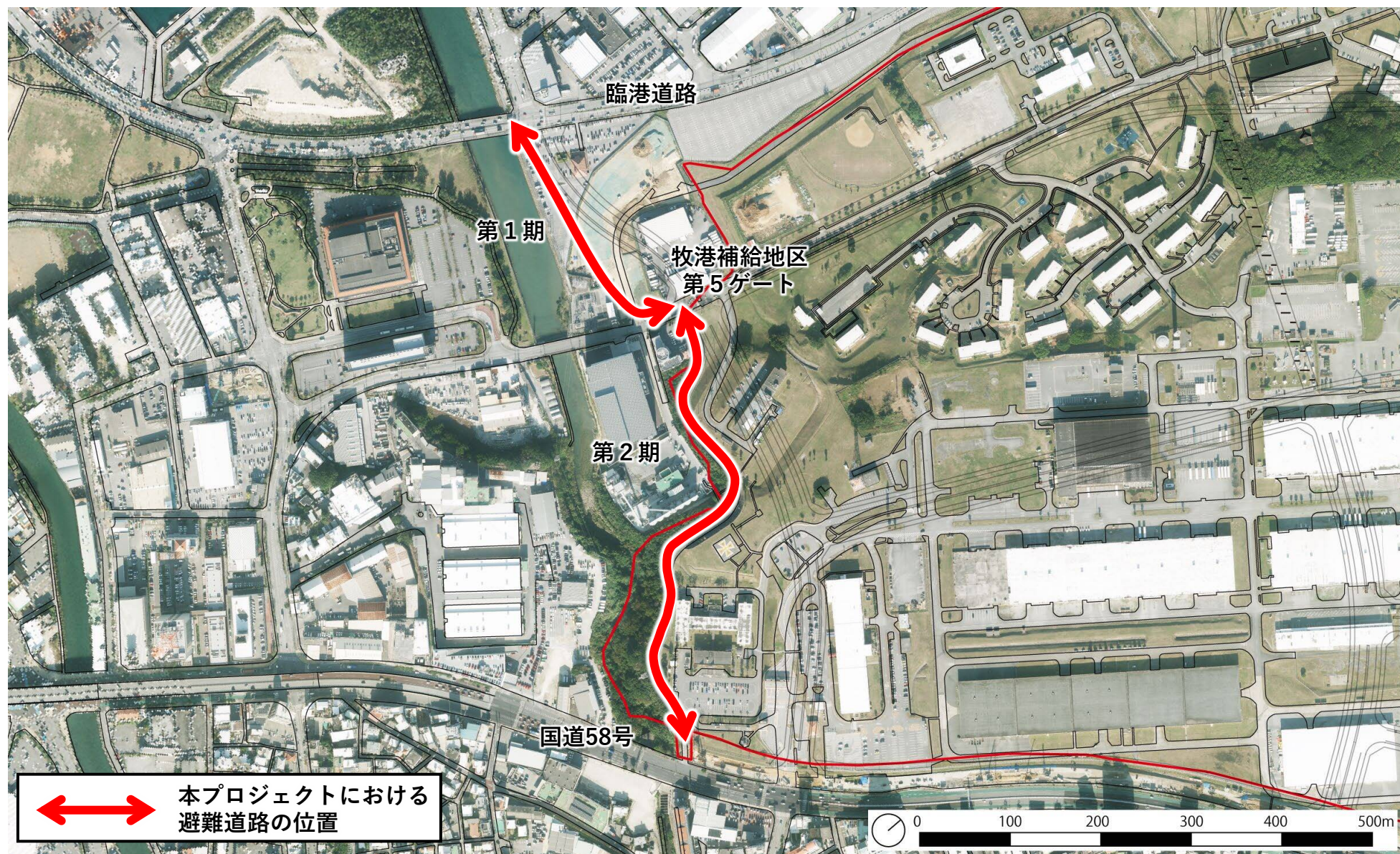
- ◆ 西洲地区や那覇港港湾計画で計画される浦添ふ頭等で働く人や物流車両等
- ◆ 西海岸周辺エリアを訪れる人・働く人

【留意事項】

- ◆ 牧港補給地区跡地利用計画に位置付けられる「流通を支える道路軸」の目的は、西洲地区や牧港補給地区の「イノベーション・業務エリア」の流通・業務車両が国道58号に向かう利用を想定した道路であり、避難道路とは現時点で想定される交通量や幅員等が異なることから、整備時期に応じて、牧港補給地区の跡地利用との整合を踏まえて検討を行う。

～西洲避難道路整備事業～

【整備イメージ】



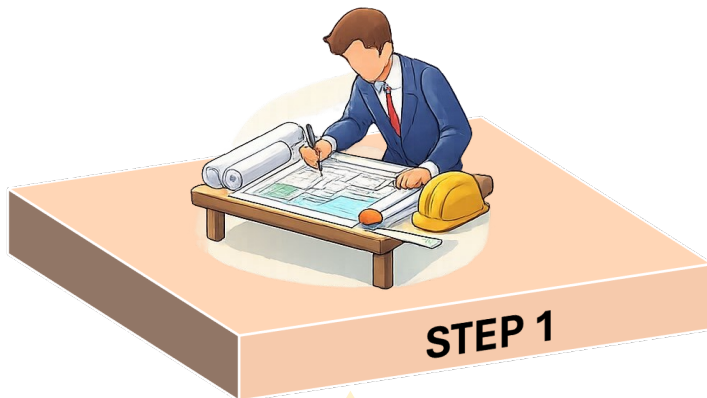
5

今後の取組み

段階的な取組みの進め方

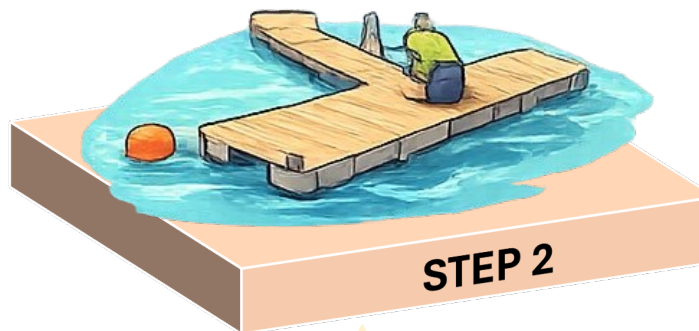
西海岸周辺エリアは、自然環境、産業、交流、安全・安心など、多様な要素が重なり合うエリアです。

そのため、将来像の実現に向けては、一度に大規模な整備を行うのではなく、基本計画の作成、先行的な取組みの実施を経て、段階的に事業化を進めていくことが重要です。



STEP1 | 基本計画の作成

- ✓ 各プロジェクトの基本的な考え方の整理
- ✓ 導入機能・規模・配置の検討
- ✓ 自然環境・防災・交通条件等の整理
- ✓ 関係機関・地元との意見交換



STEP2 | 先行実施(実証・小さな取組み)

- ✓ 環境負荷の小さい取組みから着手
- ✓ 実証的な利活用や社会実験の実施
- ✓ 利用状況・運営方法の検証
- ✓ 課題や改善点の整理



STEP3 | 各プロジェクトの事業化

- ✓ 各プロジェクトの事業スキーム検討
- ✓ 民間事業者の参画検討（PPP等）
- ✓ 段階的な整備・運営の実施
- ✓ 周辺エリア・広域との連携強化

西海岸周辺エリア基本構想

発行年月：2026（令和8）年3月

発行：浦添市 企画部 港湾基地政策局 基地政策課

〒901-2501 沖縄県浦添市安波茶1丁目1番1号

TEL：098－876－1234（代表）

